

大阪市高齢者実態調査報告  
(ひとり暮らし調査)

平成26年3月

大阪市 福祉局 高齢福祉課  
高齢施設課  
介護保険課

# 高齢者実態調査（ひとり暮らし調査）

## 目次

### 1 調査概要

- (1) 調査目的
- (2) 調査設計
- (3) 調査項目
- (4) 回収状況
- (5) 報告書の見方

### 2 調査結果

#### (1) ひとり暮らし調査

問1 ひとり暮らしの期間	1
問2 健康状態	1
問3 日頃行き来したりする方	3
問4 もっともよく行き来している方	3
問5 もっともよく行き来している方の家の場所	3
問6 もっともよく行き来している方との行き来の頻度	4
問7 誰とも話をしない日は週に何日か	6
問8 病気等の緊急時にすぐに来てくれる人の有無	8
問8-1 すぐに来てくれる方との関係	8
問9 直近1年間で、3日以上介護が必要になったことがあるか	9
問9-1 介護を要した際、どこで療養したか	9

#### (2) 本人調査における「ひとり暮らし世帯」回答結果（世帯比較）

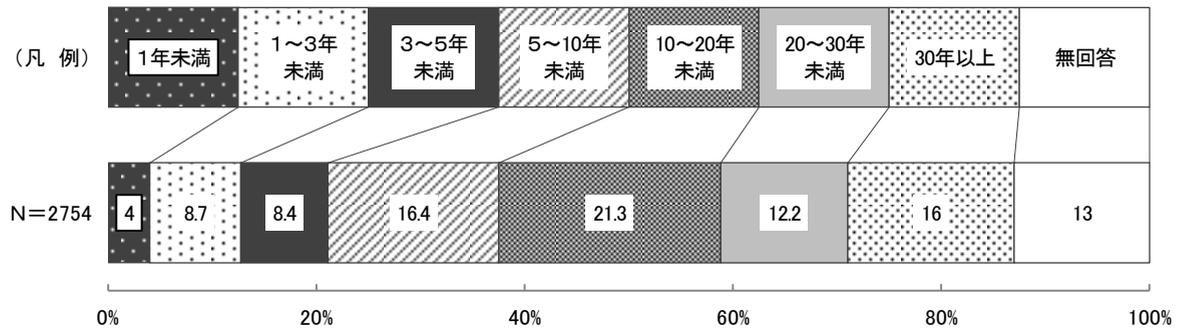
本人調査 問1 記入者	13
本人調査 問2 (1) 性別	13
本人調査 問2 (2) 年齢	13
本人調査 問4 住宅の種類	14
本人調査 問6 介護保険の申請、認定状況	14
本人調査 問7 日常生活動作・日常的な活動の状況	15
本人調査 問8 外出の頻度	15
本人調査 問16 日常生活全般に対する不安	16
本人調査 問16-1 不安に感じることの内容	16
本人調査 問19 近所付き合いの程度	17
本人調査 問19-1 近所付き合いがほとんどない理由	17
本人調査 問28 介護や援護が必要となった場合に希望する暮らし方	18
本人調査 問29 在宅生活継続のために必要な支援	18
本人調査 問36 孤立死について考えること	19
本人調査 問37 孤立死を防ぐために必要な支援	19
本人調査 問45 重点を置くべき高齢者施策	20

ひとり暮らし調査

問1 ひとり暮らしの期間

・ひとり暮らし世帯の回答者の「ひとり暮らしの期間」については、「10～20年未満」が21.3%と最も多く、次いで「5～10年未満」(16.4%)、「30年以上」(16.0%)となっている。

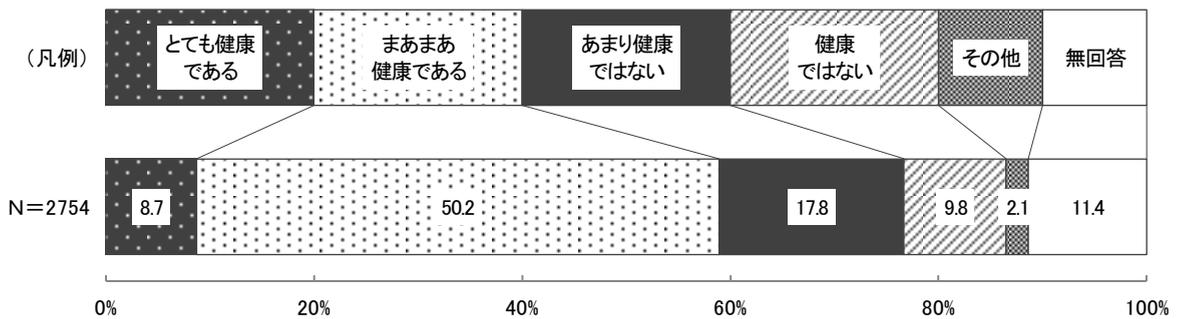
【図1 ひとり暮らしの期間】



問2 健康状態

・ひとり暮らし世帯の回答者の「健康状態」については、「まあまあ健康である」が50.2%と最も多く、次いで「あまり健康ではない」が17.8%となっている。  
・「とても健康である」「まあまあ健康である」を合わせた『健康な状態』のひとり暮らし世帯の方は、58.9%となっている。

【図2 健康状態】

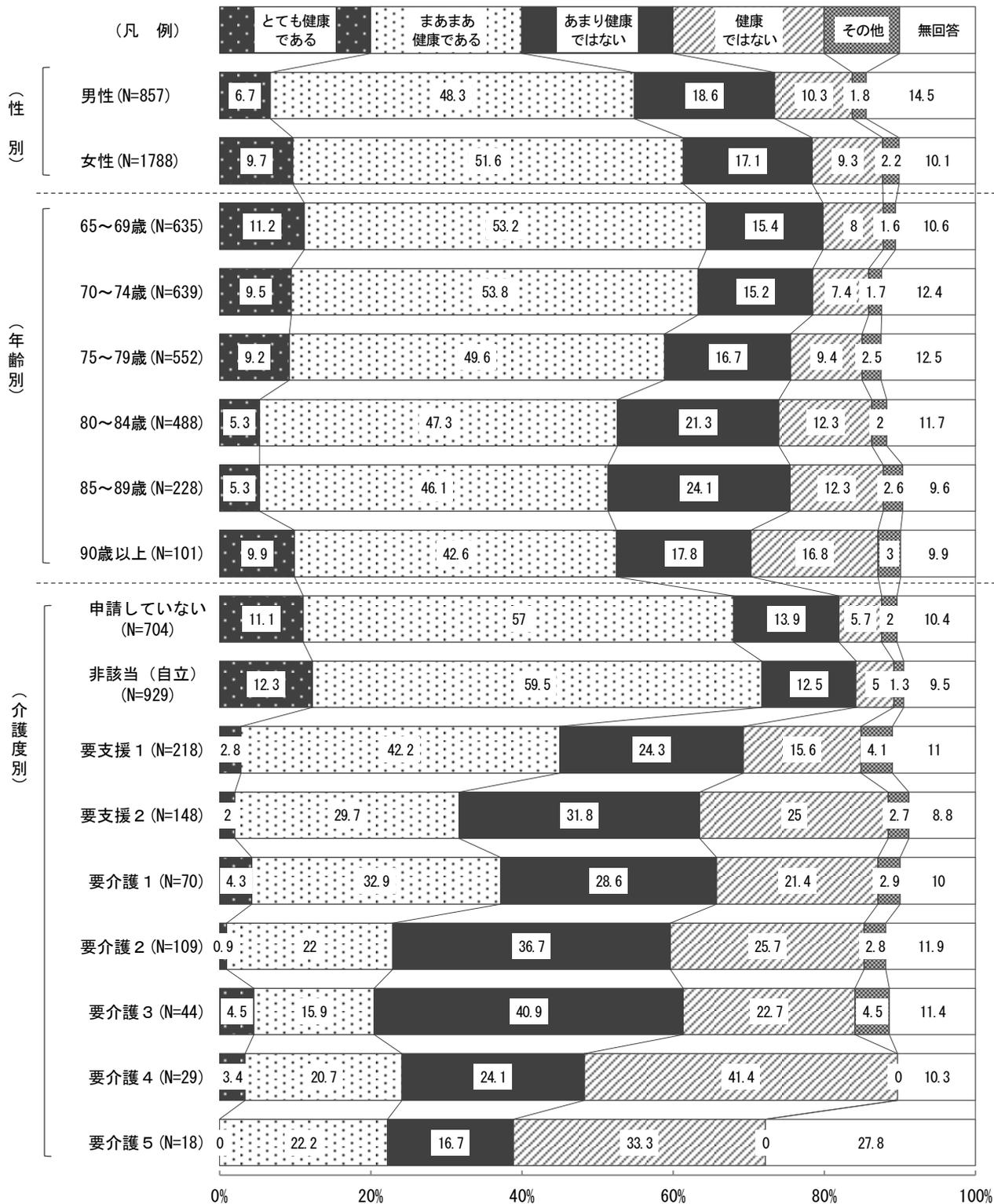


ひとり暮らし調査

問2 健康状態 (性別、年齢別、介護度別)

・ひとり暮らし世帯の回答者の「健康状態」について、性別で見ると、それほど大きな差はないが、男性の方がやや健康でないとの回答が多い。  
 ・年齢別で見ると、高齢になるほど、健康でないと回答される方が多くなっている。  
 ・介護度別で見ると、「非該当(自立)」「申請していない」は、『健康である』と回答された方が7割前後と高い。一方、「要介護2」以上では、「健康でない」「あまり健康でない」を合わせた『健康でない』と回答された方が6割近くとなっている。

【図2-a 健康状態 (性別・年齢別・介護度別)】

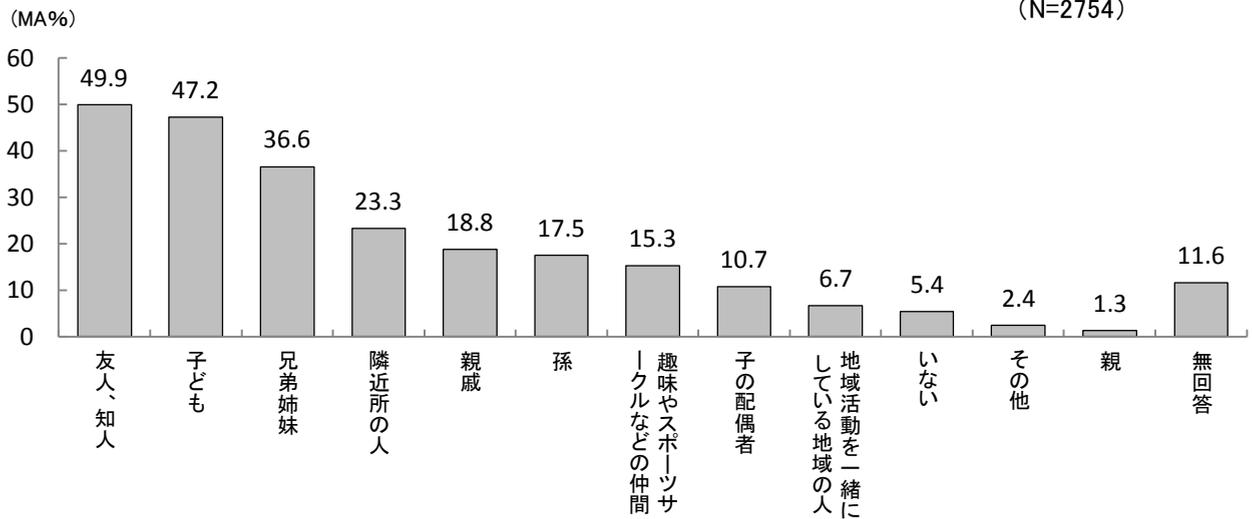


ひとり暮らし調査

問3 日頃行き来したりする方 (複数回答)

・ひとり暮らし世帯の回答者の「電話などを含め連絡や行き来する方」については、「友人、知人」が49.9%と最も多く、次いで「子ども」が47.2%となっている。  
・一方、日頃誰とも行き来のない「いない」と回答された方は、5.4%となっている。

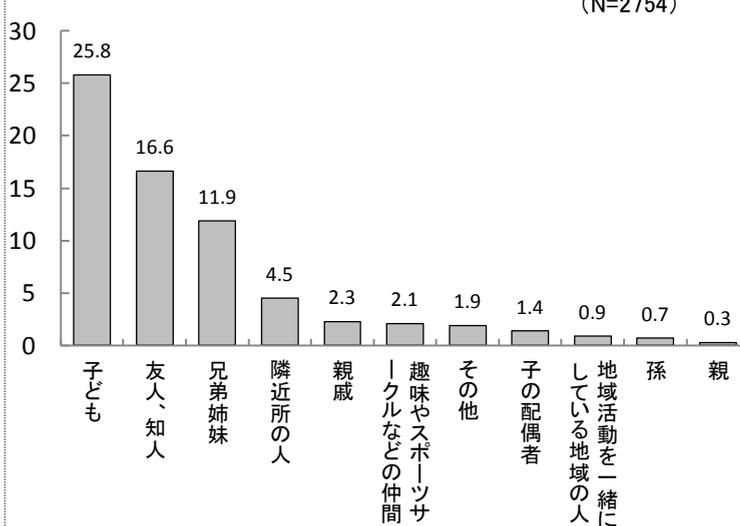
【図3 日頃行き来したりする方】



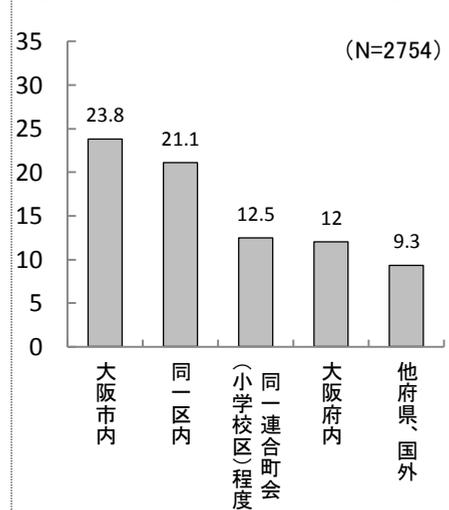
問4 もっともよく行き来している方  
問5 もっともよく行き来したりする方の家の場所

・もっともよく行き来している相手については、「子ども」が25.8%と最も高く、次いで「友人、知人」が16.6%、「兄弟姉妹」が11.9%となっている。  
・また、もっともよく行き来している相手の家の場所をたずねると、「大阪市内」が23.8%と最も多く、次いで「同一区内」が21.1%となっている。

【図4 もっともよく行き来している方】



【図5 よく行き来している方の家の場所】

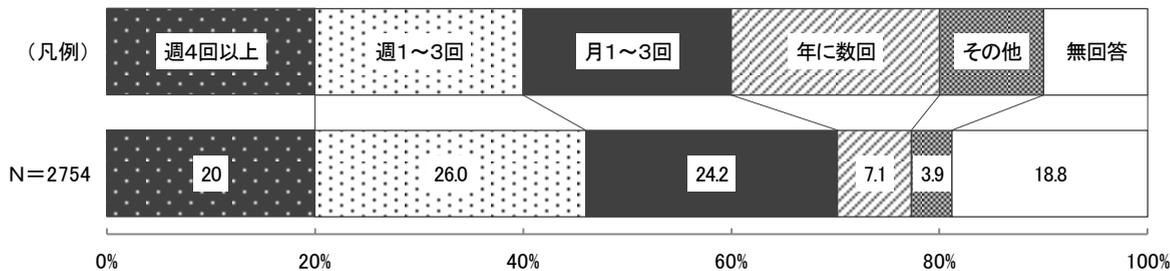


ひとり暮らし調査

問6 もっとも親しくしている方との行き来の頻度

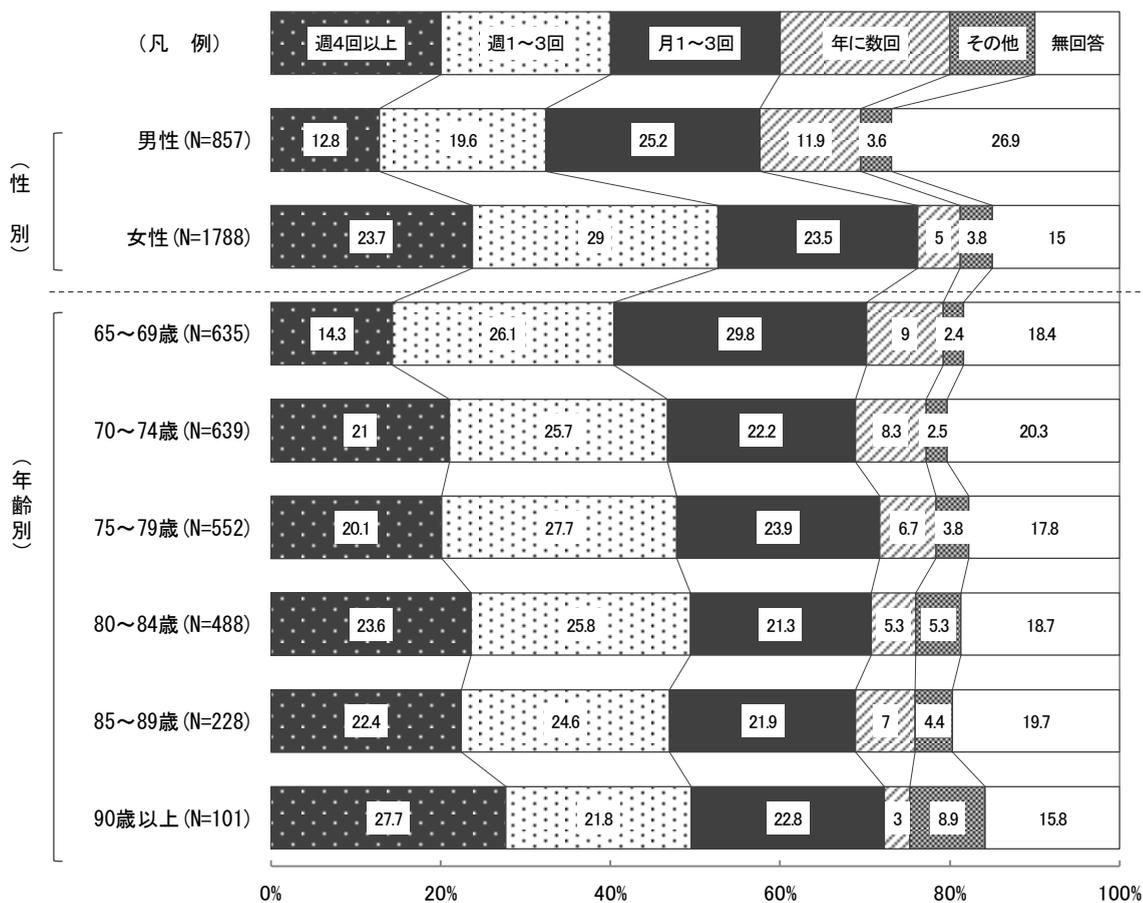
- ・ひとり暮らし世帯の回答者の「最も親しくしている方との行き来の頻度」については、「週1～3回」が26.0%で最も多く、次いで「月1～3回」が24.2%、「週4回以上」が20.0%となっている。
- ・また、「年に数回」といった、行き来の頻度がかなり少ない方は、7.1%となっている。

【図6 もっとも親しくしている方との行き来の頻度】



- ・最も親しくしている方との行き来の頻度について、性別で見ると、男性よりも女性の方が、人との行き来の頻度が多くなっている。また、男性は、約1割の方が「年に数回」との回答となっている。
- ・年齢別で見ると、概ね高齢になるほど、「週4回以上」行き来をするとの回答割合が多くなっている。「年に数回」との回答が多いのは「65～69歳」となっている。

【図6-a もっとも親しくしている方との行き来の頻度(性別・年齢別)】

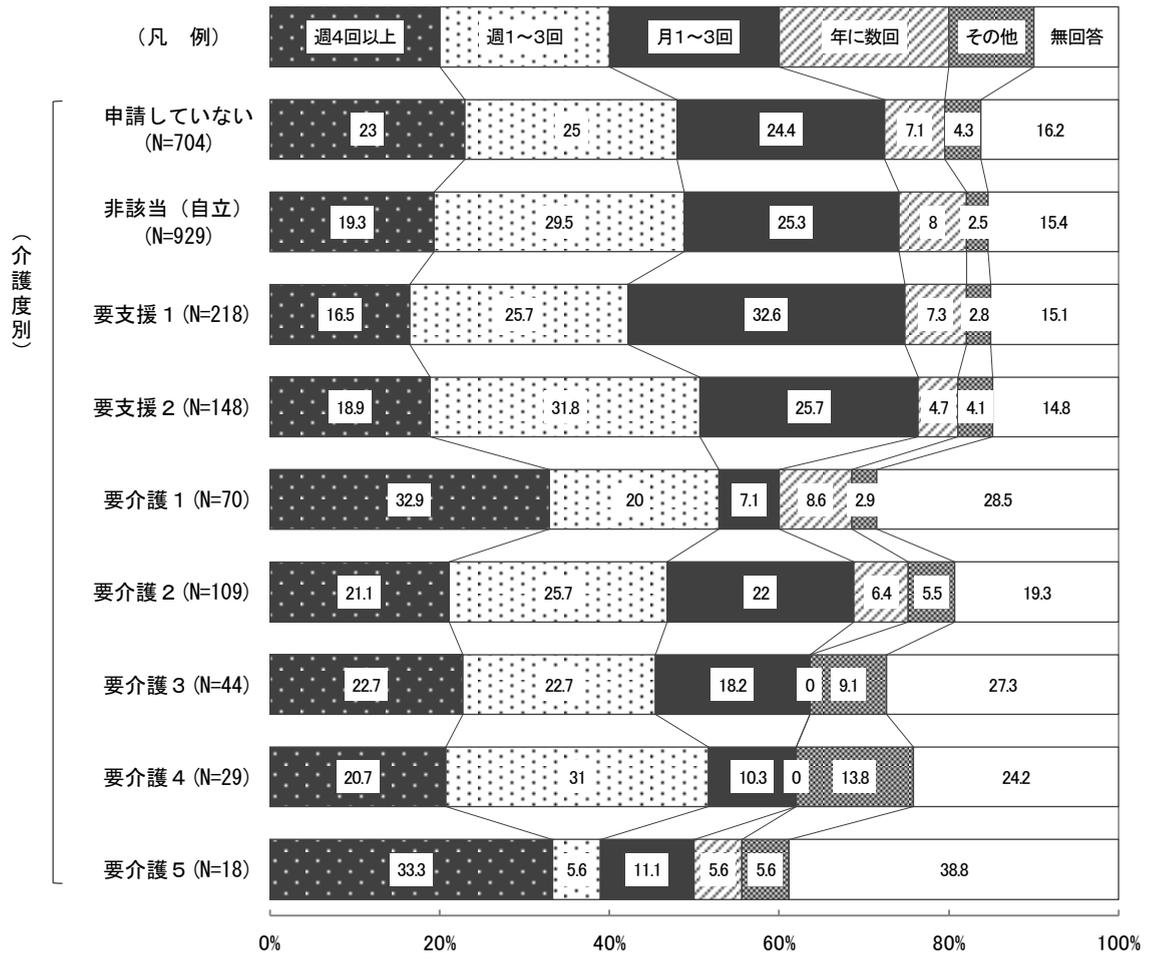


ひとり暮らし調査

問6 もっとも親しくしている方との行き来の頻度 (介護度別)

・最も親しくしている方との行き来の頻度について、介護度別でみると、「要介護1」「要介護5」で「週1回以上」との回答が多くなっている。  
 ・また「年に数回」との回答は、「非該当(自立)」「要介護1」が8%の回答割合で、他よりやや高い割合となっている(ただし、無回答の割合も多い)

【図6-b もっとも親しくしている方との行き来の頻度(介護度別)】

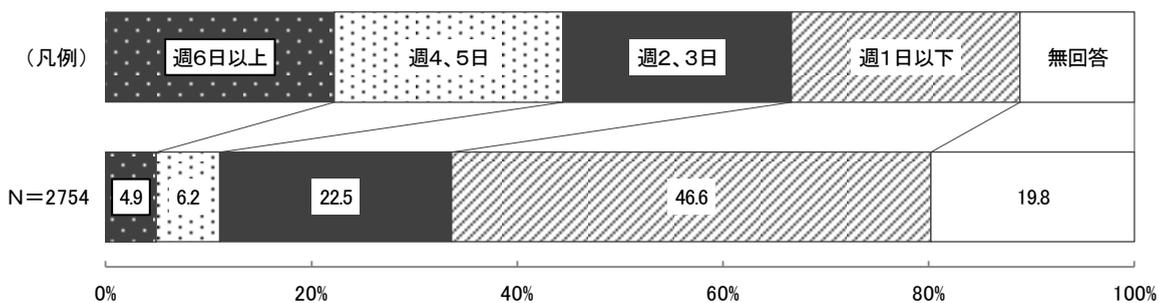


ひとり暮らし調査

問7 誰とも話をしない日は週に何日か

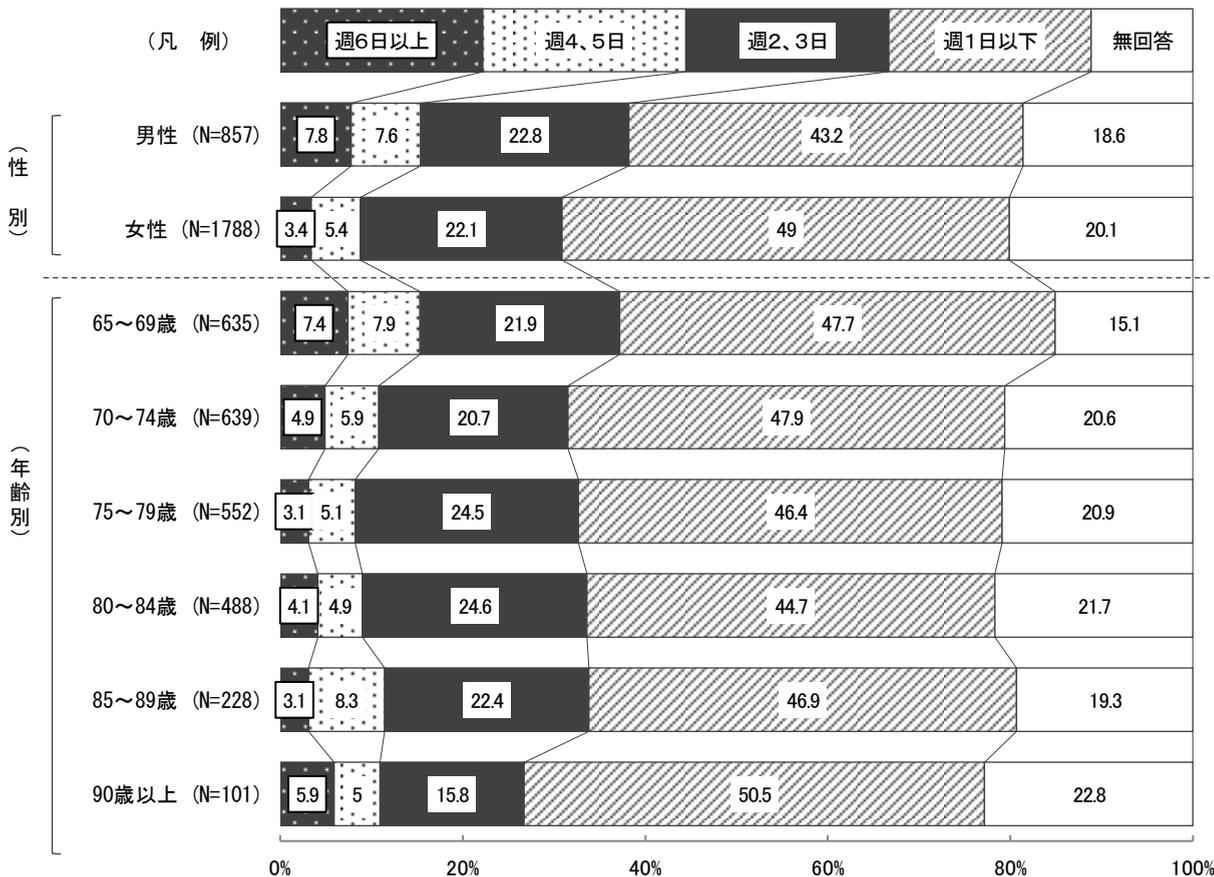
- ・ひとり暮らし世帯の回答者の「誰とも話をしない日は週に何日か」については「週1日以下」が46.6%で最も多く、次いで「週2、3日」が22.5%となっている。
- ・また、誰とも話をしない日が週のほとんどである「週6日以上」の方は、4.9%となっている。

【図7 誰とも話をしない日は何日か】



- ・誰とも話をしない日は週に何日かについて、性別で見ると、「週6日以上」の週にほとんど誰とも話をしていない方は、女性より男性の方が多い。
- ・年齢別で見ると、「週6日以上」誰とも話さない方は、65～69歳が最も多くなっている。

【図7-a 誰とも話をしない日は何日か(性別・年齢別)】

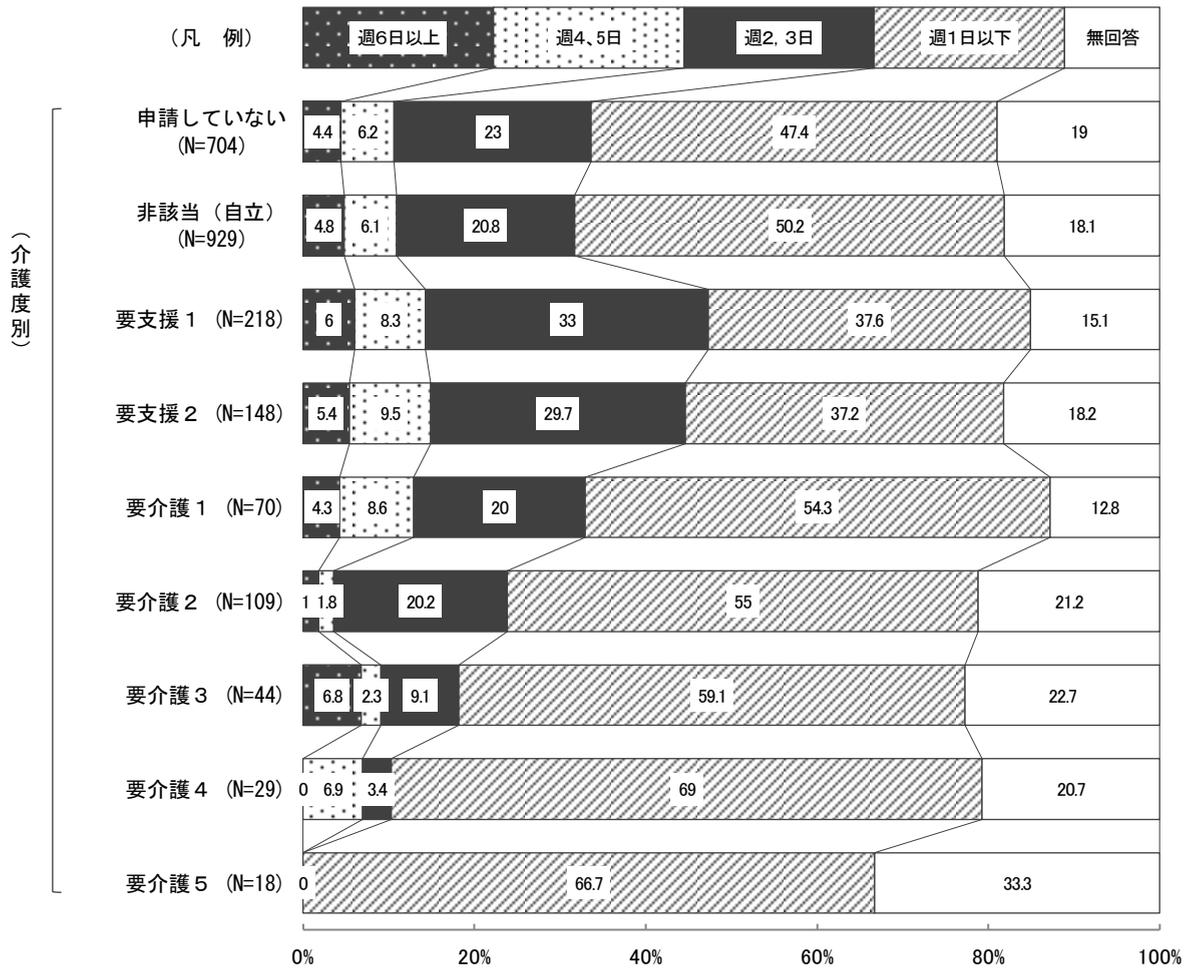


ひとり暮らし調査

問7 誰とも話をしない日は週に何日か (介護度別)

・誰とも話をしない日は週に何日かについて、介護度別でみると、「週6日以上」の週にほとんど誰とも話をしていない方は、「要介護3」が最も多く、「申請していない」から「要介護1」までは5%前後となっている。

【図7-b 誰とも話をしない日は何日か(介護度別)】



ひとり暮らし調査

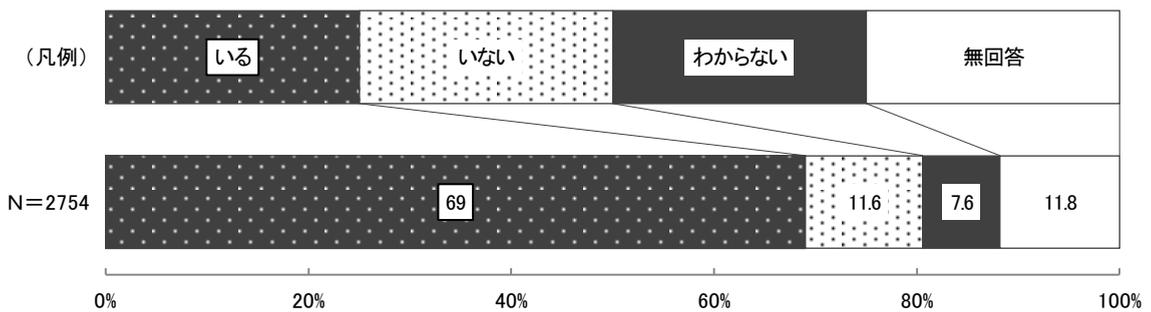
問8 病気等の緊急時にすぐに来てくれる人の有無

問8-1 すぐに来てくれる方との関係

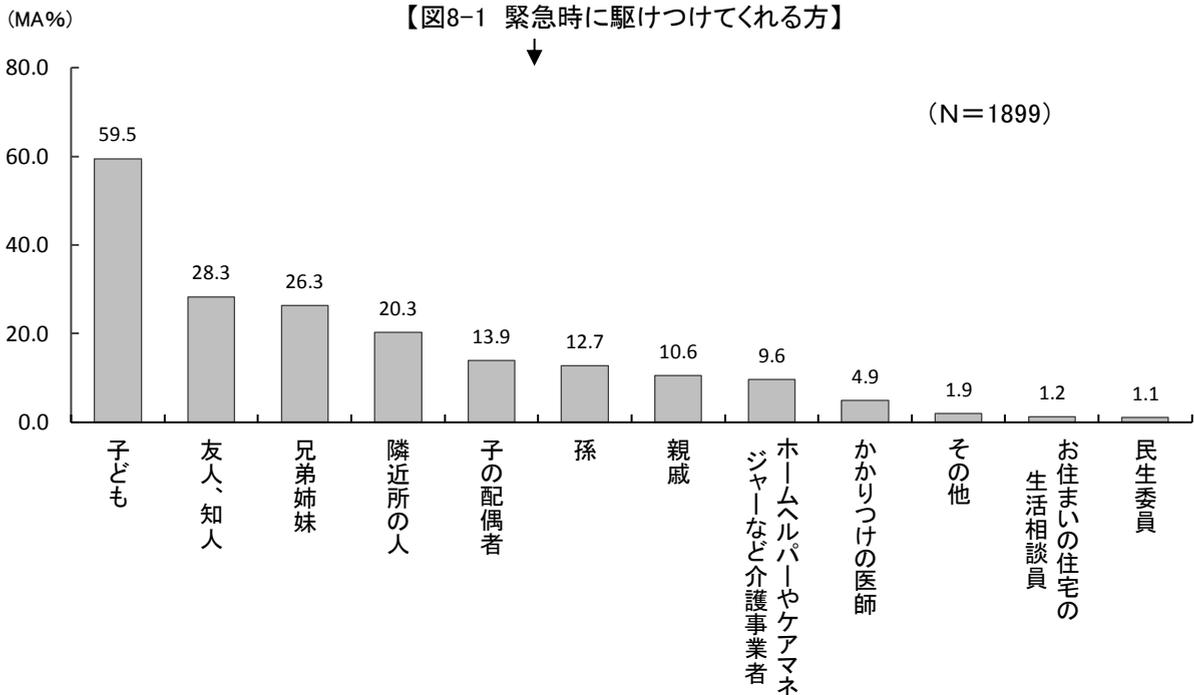
(複数回答)

・ひとり暮らし世帯の回答者の「病気等の緊急時にすぐ来てくれる人の有無」では、「いる」が69.0%で、「いない」は11.6%となっている。  
・また、すぐに来てくれる方についてたずねると、「子ども」が59.5%で最も多く、次いで「友人、知人」で28.3%、「兄弟姉妹」が26.3%となっている。

【図8 病気等の緊急時にすぐに来てくれる人の有無】



【図8-1 緊急時に駆けつけてくれる方】

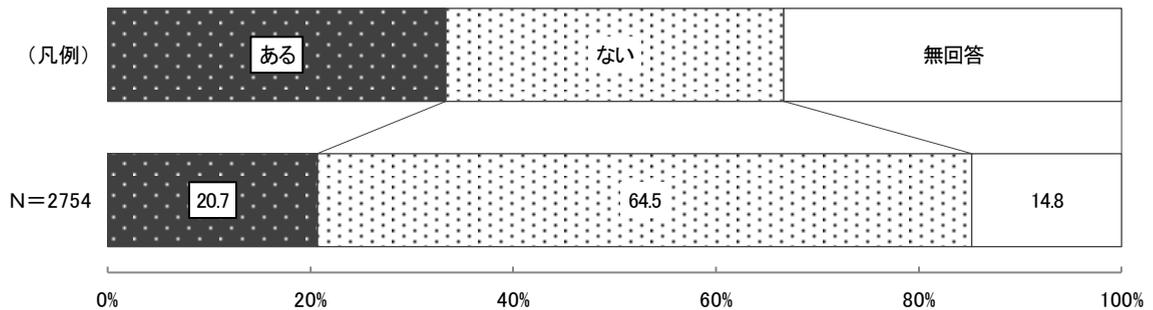


ひとり暮らし調査

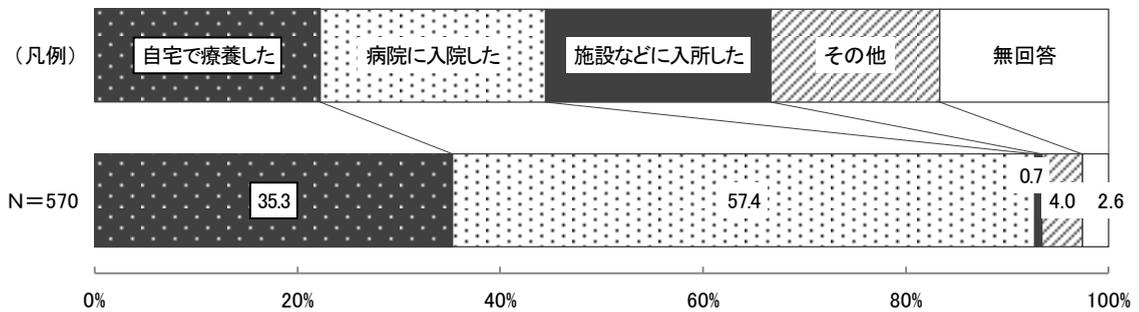
問9 直近1年間で、3日以上介護が必要になったことがあるか  
問9-1 介護を要した際、どこで療養したか

・ひとり暮らし世帯の回答者の「直近1年間で、3日以上介護が必要になったことがあるか」については、「ある」が20.7%で、「ない」は64.5%となっている。  
・介護が必要になった場合、どのように療養したかについては、「病院に入院した」が57.4%で最も多いが、一方で、「自宅で療養した」が方も35.3%となっている。

【図9 直近1年間で、3日以上介護が必要になったことがあるか】



【図9-1 介護を要した際、どこで療養したか】





本人調査における

『ひとり暮らし世帯』回答結果

《 世帯比較 》

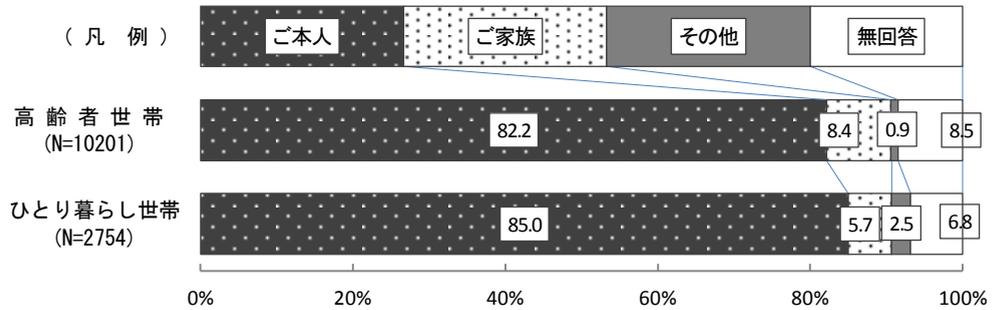


本人調査における『ひとり暮らし世帯』回答結果 (世帯比較)

本人調査 問1 記入者

・ひとり暮らし世帯の「調査票記入者」は、85%が「本人」となっており、高齢者世帯全体よりやや多くなっている。また、「家族」の記入はやや少ないが、「その他」の協力による記入がやや多くなっている。

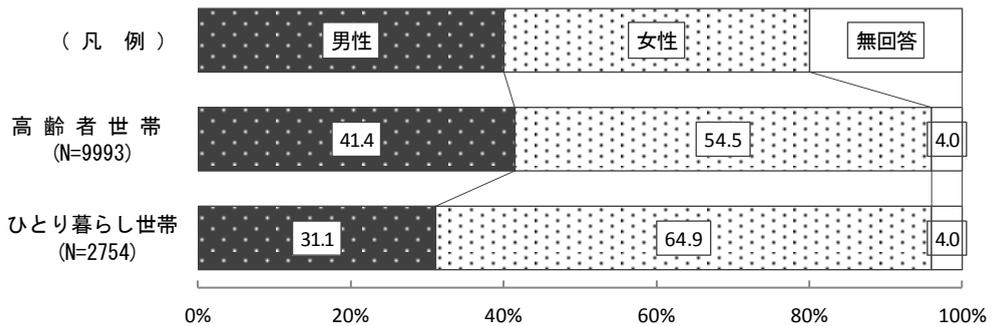
【図1 記入者(世帯比較)】



本人調査 問2 (1) 性別

・ひとり暮らし世帯の回答者の「性別」については、「男性」が31.1%、「女性」が64.9%となっており、高齢者世帯全体より「女性」の回答者の割合がやや多くなっている。

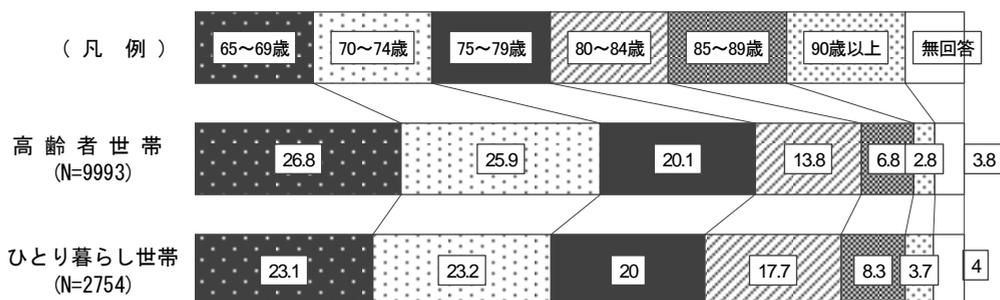
【図2(1) 性別(世帯比較)】



本人調査 問2 (2) 年齢

・ひとり暮らし世帯の回答者の「年齢」については、前期高齢者(65~74歳)が46.3%で、後期高齢者(75歳以上)が49.7%となっており、高齢者世帯全体の回答者と比べ、前期高齢者の回答者がやや少なく、後期高齢者の回答者の割合がやや多くなっている。

【図2(2) 年齢(世帯比較)】

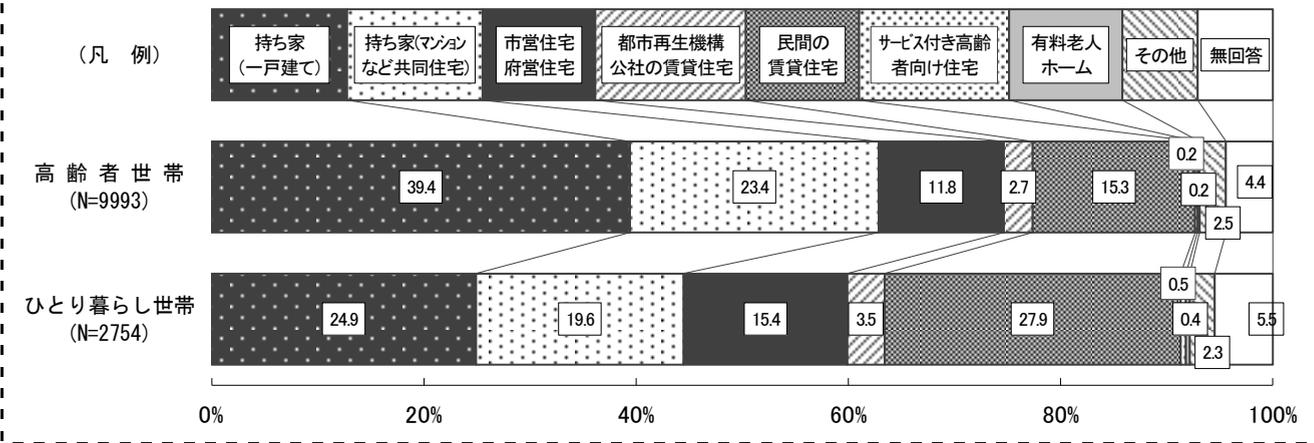


本人調査における『ひとり暮らし世帯』回答結果 (世帯比較)

本人調査 問4 住宅の種類

・ひとり暮らし世帯の回答者の「住宅の種類」については、「民間の賃貸住宅(サ高住除く)」の回答が最も多く27.9%となっており、高齢者世帯全体よりも回答割合が多い。  
 ・一方、「持ち家」については、一戸建て、マンションなどの共同住宅とも、他の世帯に回答割合が低くなっている。

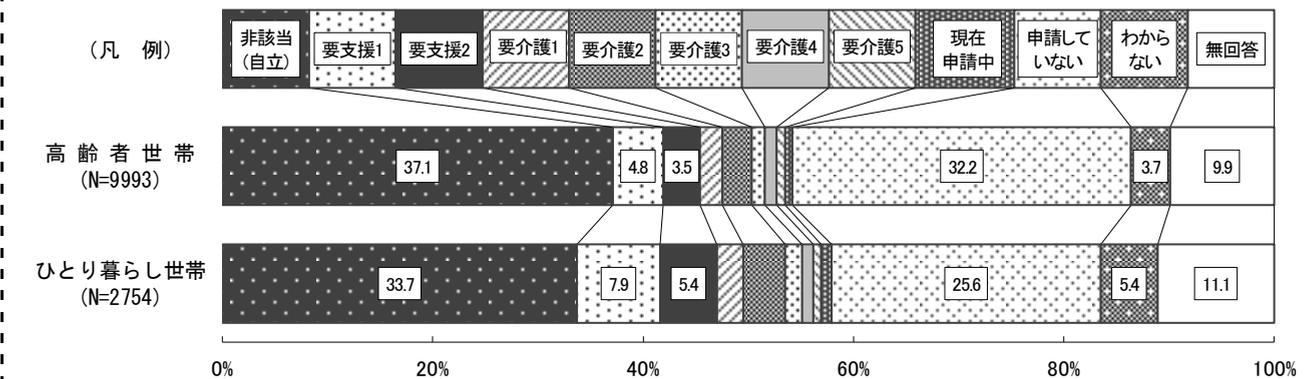
【図4 住宅の種類(世帯比較)】



本人調査 問6 介護保険の申請、認定状況

・ひとり暮らし世帯の回答者の「介護保険の認定申請及び認定状況」については、「非該当(自立)」が最も多く33.7%であり、次いで「申請していない」が25.6%となっており、高齢者世帯全体と同様の傾向であるが、回答割合としてはやや少ない割合となっている。  
 ・一方、「要支援1」から「要介護3」までは、高齢者世帯全体に比べて、ひとり暮らし世帯の回答割合がやや高くなっている。

【図6 介護保険の申請、認定状況(世帯比較)】



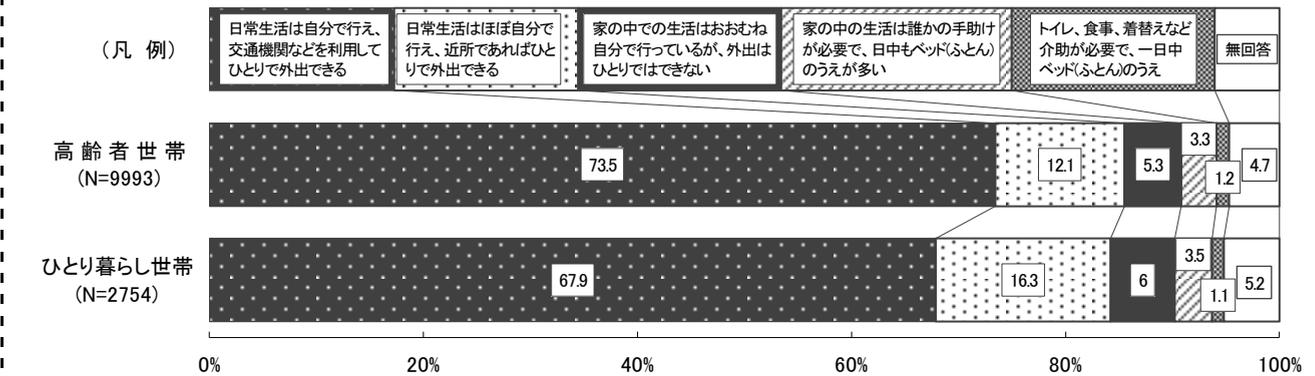
	非該当(自立)	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	現在申請中	申請していない	わからない	無回答
高齢者世帯	37.1	4.8	3.5	2.1	2.8	1.3	1.1	0.8	0.7	32.2	3.7	10.0
ひとり暮らし世帯	33.7	7.9	5.4	2.5	4.0	1.6	1.1	0.7	1.0	25.6	5.4	3.1

本人調査における『ひとり暮らし世帯』回答結果 (世帯比較)

本人調査 問7 日常生活動作・日常的な活動の状況

・ひとり暮らし世帯の回答者の「日常生活の状況について」は、「日常生活は自分で行え、交通機関などを利用してひとりで外出できる」が最も多くなっているが、高齢者世帯全体よりはやや低い割合となっている。  
 ・「日常生活がほぼ自分で行え、近所であればひとりで外出できる」を含めた『ひとりで外出可能な概ね健康な高齢者』の割合は、ひとり暮らし世帯、高齢者世帯ともほぼ同じ割合で、85%程度となっている。

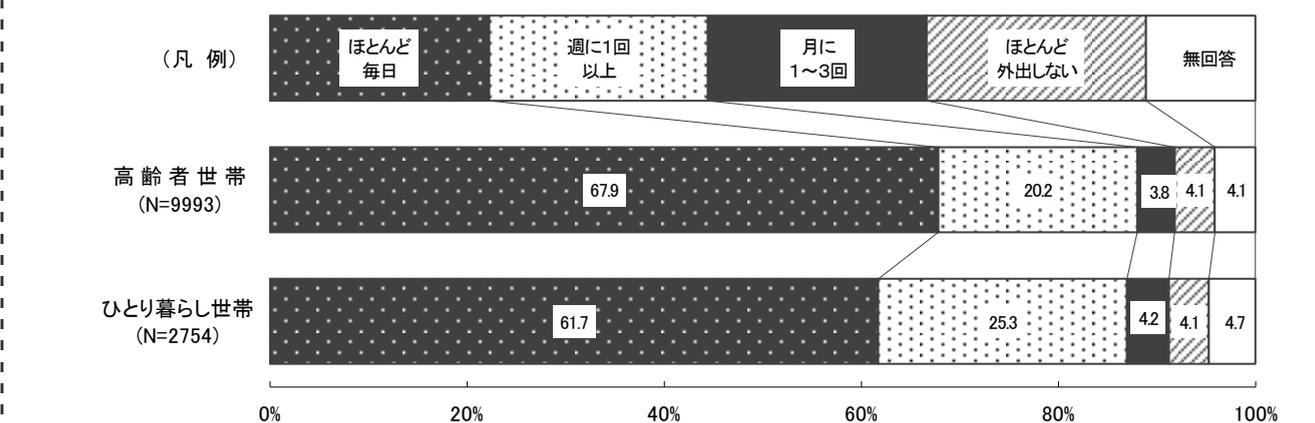
【図7 日常生活動作・日常的な活動の状況(世帯比較)】



本人調査 問8 外出の頻度

・ひとり暮らし世帯の回答者の「外出頻度」については、「ほとんど毎日」が最も多いが、高齢者世帯全体と比べると、回答割合がやや少ない。  
 ・「週に1回以上外出する」については、ひとり暮らし世帯の方がやや多くなっており、「ほとんど毎日」を含めた『週1回以上外出する』方の割合は、高齢者世帯全体、ひとり暮らし世帯とも、ほぼ同じ割合で88%程度となっている。

【図8 外出の頻度(世帯比較)】

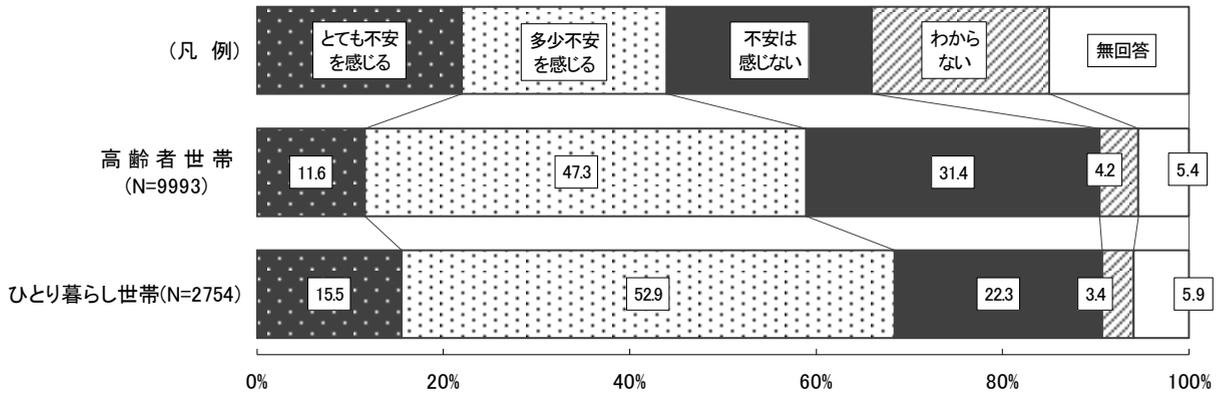


本人調査における『ひとり暮らし世帯』回答結果 (世帯比較)

本人調査 問16 日常生活全般に対する不安

・ひとり暮らし世帯の回答者の「日常生活上不安を感じるか」については、高齢者世帯全体と比べると「とても不安を感じる」「多少不安を感じる」の割合が多く、「不安は感じない」の割合が少なくなっており、全体的に、不安に感じるとの回答割合が高い。

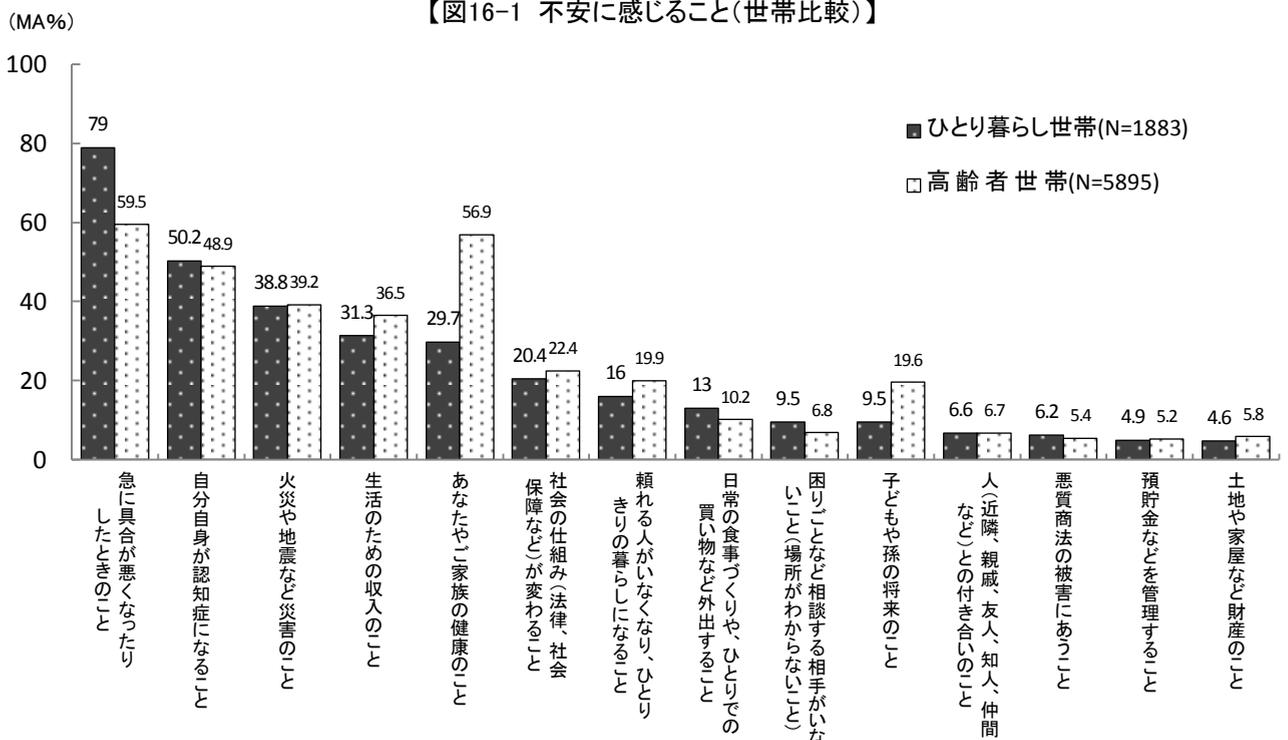
【図16 日常生活での不安の有無(世帯比較)】



問16-1 本人調査 不安に感じることの内容 (複数回答)

・ひとり暮らし世帯の回答者の「日常生活上不安に感じることの内容」については、高齢者世帯全体の回答と異なり「急に具合が悪くなったりしたときのこと」が最も多くなっている。  
 ・「自分自身が認知症になること」は高齢者世帯全体、ひとり暮らし世帯ともに多くなっている。

【図16-1 不安に感じること(世帯比較)】

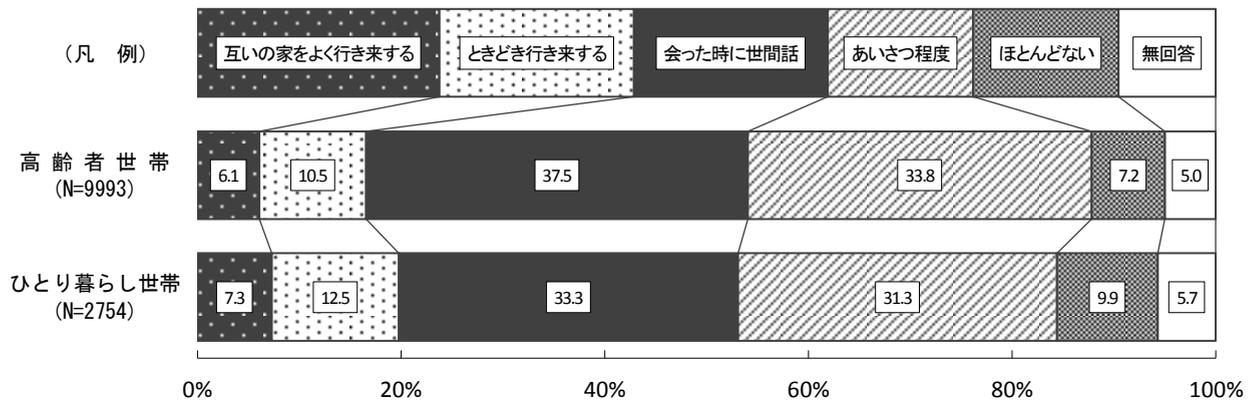


本人調査における『ひとり暮らし世帯』回答結果 (世帯比較)

問19 本人調査 近所付き合いの程度

・ひとり暮らし世帯の回答者の「近所づきあいの程度」については、「互いの家をよく行き来するくらい」「ときどき行き来するくらい」の回答割合が、高齢者全体に比べて高くなっている。  
 ・また、「ほとんどない」についても、高齢者世帯全体に比べて高くなっており、およそ1割の割合となっている。

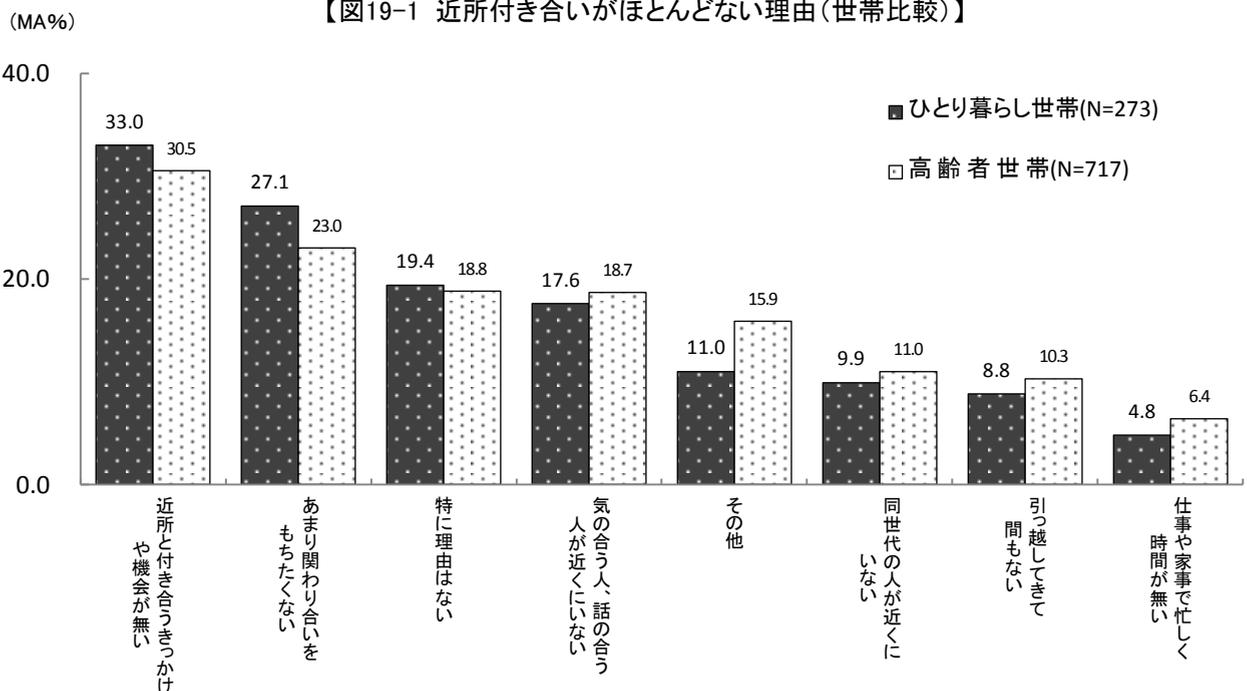
【図19 近所付き合いの程度(世帯比較)】



問19-1 近所付き合いがほとんどない理由 (複数回答)

・ひとり暮らし世帯の回答者の「近所付き合いがほとんどない理由」については、「近所と付き合いきっかけや機会が無い」「あまり関わり合いをもちたくない」などについて、高齢者世帯全体よりもやや高い回答割合となっている。

【図19-1 近所付き合いがほとんどない理由(世帯比較)】

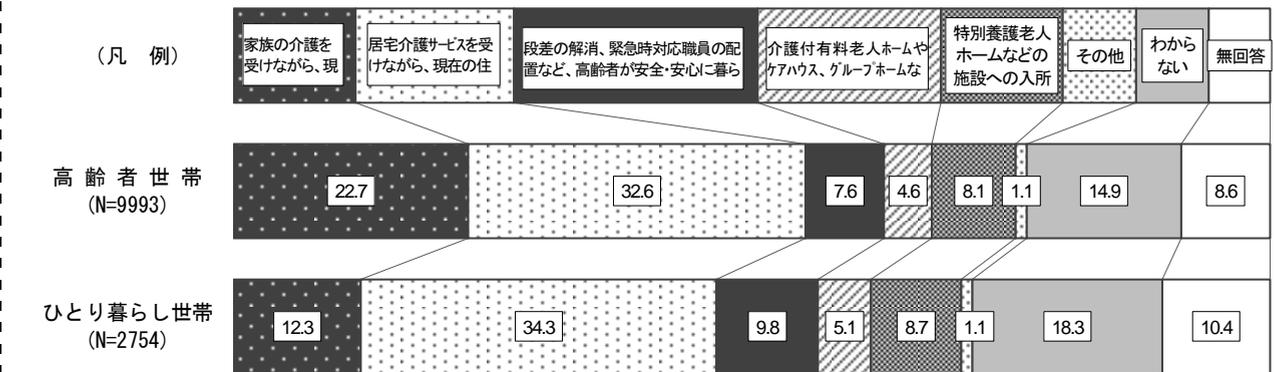


本人調査における『ひとり暮らし世帯』回答結果 (世帯比較)

問28 介護や援護が必要になった場合に希望する暮らし方

・ひとり暮らし世帯の回答者の「介護や援護が必要になった場合の暮らし方の希望」については、「ご家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」の回答割合には差があるが、「居宅介護サービスを受けながら現在の住宅に住み続けたい」は、ひとり暮らし世帯の回答割合が高くなっている。  
 ・全体的には、高齢者世帯全体、ひとり暮らし世帯とも、在宅希望の回答割合がもっとも多い。

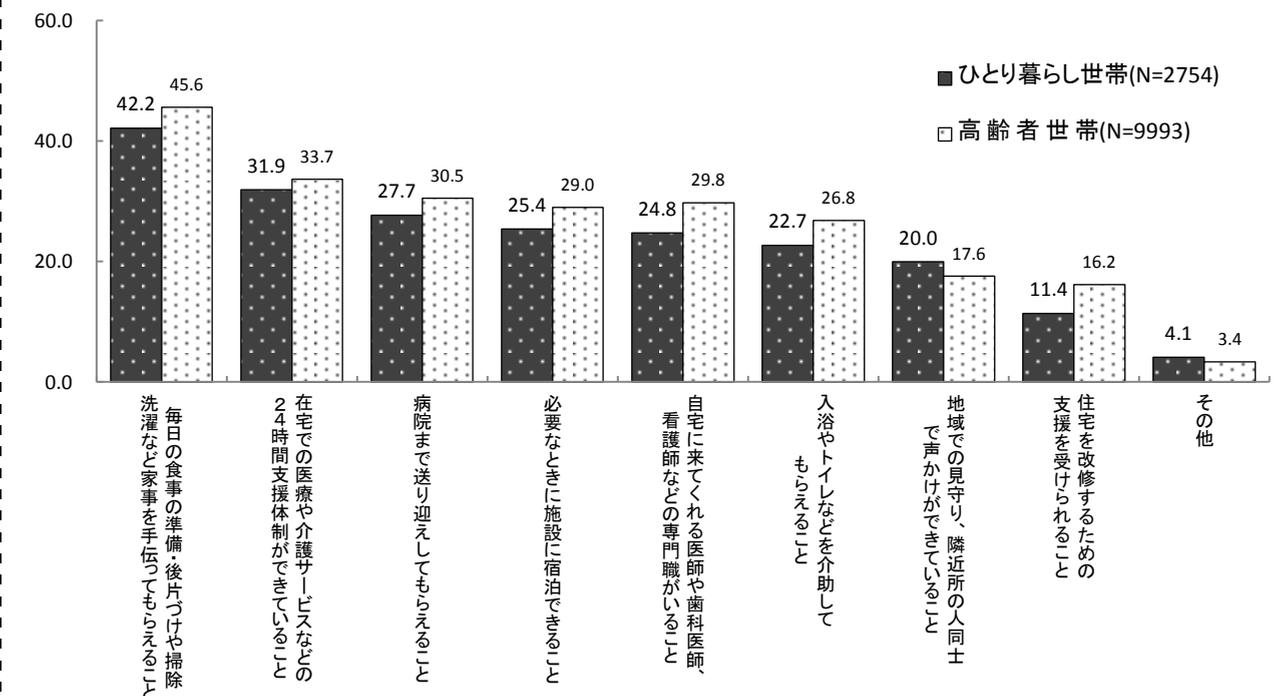
【図28 介護や援護が必要になった場合の希望する暮らし方(世帯比較)】



問29 在宅生活継続のために必要な支援 (複数回答)

・ひとり暮らし世帯の回答者の「在宅生活を継続するにあたって必要な支援」については、概ね高齢者世帯全体と同様の傾向となっているが、「地域での見守り、隣近所の人同士で声かけができていないこと」については、ひとり暮らし世帯の回答割合がやや高くなっている。

【図29 在宅生活継続のために必要な支援(世帯比較)】

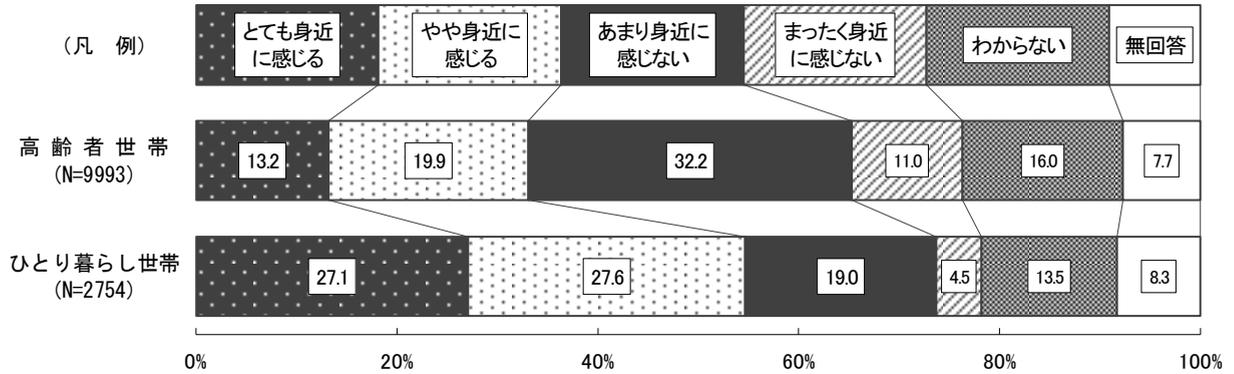


本人調査における『ひとり暮らし世帯』回答結果 (世帯比較)

問36 孤立死について考えること

・ひとり暮らし世帯の回答者の「孤立死について考えること」は、「とても身近に感じる」の回答割合が高齢者全体よりも13.9ポイント高くなっている。「とても身近に感じる」「やや身近に感じる」をあわせた割合は、高齢者世帯全体が33.1%であるのに対して、ひとり暮らし世帯は54.7%と大きな差がみられる。

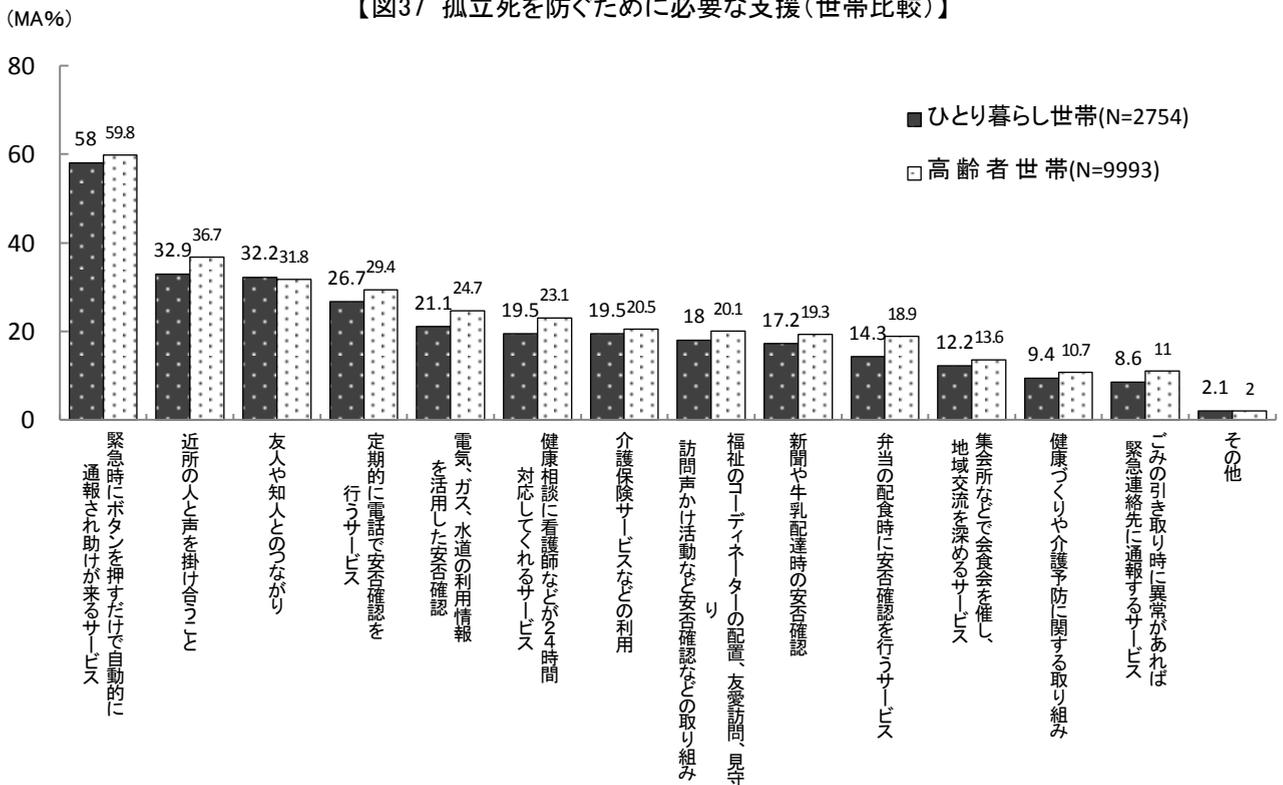
【図36 孤立死について考えること(世帯比較)】



問37 孤立死を防ぐために必要な支援 (複数回答)

・ひとり暮らし世帯の回答者の「孤立死を防ぐために必要な支援」については、高齢者世帯全体と概ね同様の傾向となっている。

【図37 孤立死を防ぐために必要な支援(世帯比較)】



本人調査における『ひとり暮らし世帯』回答結果 (世帯比較)

**問45 重点を置くべきと考える高齢者施策 (回答3つまで)**

ひとり暮らし世帯の回答者の「重点を置くべきと考える高齢者施策」については、高齢者世帯全体と概ね同様の傾向であるが、「介護保険サービス（居宅サービス）の充実」「住宅改修の充実」「情報の提供と相談」「地域の見守り、相談機能の充実」において、高齢者世帯全体よりも高い回答割合となっている。

【図45 重点を置くべきと考える高齢者施策(世帯比較)】

